

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	経営研究所
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	<p>経営研究所は、設立当初、経営学部（当時は経済学部）の研究活動（共同研究主体）の推進のために設置されたという経緯がある（「大東文化大学経営研究所所報」などを参照）。現在は、経営研究所は経営学部内の附置機関（「大東文化大学経営研究所規程」第 1 条：以下「規程」と略称）として位置づけられており、当時の設立の理念・目的を踏まえ、研究所の目的（「規程」第 2 条）を「会計及び経営に関する理論的及び実証的研究を行うこと」と明確に規定しており、この目的を遂行するために以下の事業を行う（「規程」第 3 条）としている。</p> <p>(1) 会計及び経営に関する理論的及び実証的研究 (2) 資料の収集整備及び保管 (3) 研究成果の刊行及び各大学、研究所等との交流 (4) 学生等の研究指導並びに講座の開講 (5) その他前条の目的を達成するために必要な事業</p> <p>このような事業活動を展開することによって、本研究所での研究・教育活動が推進されることから、設立の理念・目的が「規程」（第 2 条と第 3 条）において適切に反映されている。</p> <p>「個性化・独自性、国際化への対応」については、理念・目的の中では明記されていないが、具体的には研究所のシンポジウム（国際交流事業）や地域連携活動を通じて「個性化・独自性、国際化への対応」を図っている。</p>
1-2	<p>研究所の理念・目的は、既述したように「経営研究所規程」において明記されており、構成員に周知している。また、ホームページ（HP）上でも公開し、社会に向けて研究所の理念・目的を周知している。また、運営委員会および研究部会を通じて、研究所の理念・目的を周知しているだけでなく、新たな環境の変化に対応できるように「規程改正」を含め検討している。このように、「理念・目的」を研究所の内外に向けて周知しており、委員会などを通じて周知方法の有効性を検証する体制を構築している。</p>
1-3	<p>「経営研究所規程」は 1981 年に制定され、30 年以上も経過しており、社会の変化へ対応した研究・教育活動を展開するためには、「理念・目的」も時代に即応するような改正も必要と思われる。そこで、運営委員会及び研究部会では規程改正も含めた検討を行っており、環境の変化に耐えうるように検証を行っている。</p>

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	今後、環境の変化を見据え、研究所の「理念・目的」の中に幅広い活動への取り組みを含意するように規程改正も含め検討する。
1-2	
1-3	「理念・目的」の有効性を検証できるような体制を推進する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「大東文化大学経営研究所規程」、「大東文化大学経営研究所所報」（大東分大学経営研究所所報）、HP など。
--

《指標データ》

なし

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	1-1 経営研究所の理念・目的が社会の変化に適応したものとなるように抜本的な規程の改正を行う。	新たな理念・目的が規定され、経営研究所内で、社会貢献活動（産学官連携、地域連携、実践教育との連携など）を含む幅広い事業活動が推進されていること。	→					
			→					
			→					
14年度 目標	1-1 社会の変化に対応した新たな理念・目的となるように規程の改正を含めた検討を開始する。	経営研究所の活動の実態に適合するよう な理念・目的となるように、委員会の設置等を行い、委員会でその進捗状況が定期的に報告されていること。	→	B				